

# TABLE FOR TWO かわら版

第4号 2009年8月発行



## ご挨拶

1年2か月ぶりにウガンダのルヒイラ村を訪問しました。給食プログラムの成果で、子どもたちが充実した学校生活を送り、素晴らしい笑顔をしているのが印象的でした。

(TABLE FOR TWO事務局 小暮 真久)

これまでに集まったご寄付(2009年7月31日現在)

# 1,500,539食

約6,820人の子どもの1年分の学校給食になります。

## ウガンダ便り 2009 ～ 給食が、子どもと村を変えていく～

### 初の視察から1年。学校生活は、着実に健やかに。

今回ウガンダで訪問した、オムウィチャンバ小学校の様子からお知らせします。

**【育まれるからだと心】** 給食を食べることで、子どもたちは1日に必要なビタミンの約7割、そしてエネルギーの半分程度を毎日摂取できるようになりました。育ち盛り子ども達に必要な栄養面の充実だけではありません。給食によって、子どもの心に健やかさが生まれています。空腹のあまり感情的になりがちだった子が、温かな一食でお腹が満たされることにより、本来その子が持っている、ゆとりや落ち着きを取り戻しています。先生がた曰く、以前の様子は「HUNGRY(空腹)＝ANGRY(怒り)」。この連鎖から抜け出す力も、学校給食が担う結果に。

**【充実する学び】** 給食によって、これまで学校に来なかった子ども達が、新たに登校し始めています。また、これまでなら昼休みに自宅へ食事に帰り、時には遅刻しながら午後のクラスに出てきていた頑張り屋さんの子達も、今では皆と一斉に給食を食べ、揃って次の授業へ取り組めるようになりました。こうして給食は、栄養面だけでなく、勉学の機会拡大にも繋がっています。空腹が軽減されることで、授業への集中度も確実にアップしていました。

**【変化する先生や保護者】** 子ども達の授業態度の変化を語る、先生がたの顔つきも、とても活き活きしています。教えるモチベーションの向上が伝わってきました。保護者もまた変わっています。かつては学業に関心が薄く、子どもに家業の手伝いを優先させていた家庭が、学校に行けば給食が食べられることを理由に、我が子を通学させるようになりました。



給食タイムは笑顔がいっぱい(上・下左)

語ってくれた先生がた(下右)

### オムウィチャンバ小学校のじかんわり

08:00 そうじ  
08:30 授業  
13:00 給食  
14:00 授業  
15:30 終業

授業に「農業」が加わりました。

課外活動に「植林」が加わりました。

### 「給食発」の農業と植林活動

このオムウィチャンバ小学校では、野菜畑や植林用の苗床が校内に出来ていました。授業でさまざまな作物を育てて給食用に調理することから、多毛作や栄養の知識を学んでいます。薪(調理用の燃料)の自給に向けた植樹・植林も始まりました。また、これらの余剰品を販売で得た現金収入を、学校運営に充てています。給食支援をきっかけに、自立につながるステップが芽生えています。



キャベツ栽培と栄養を先生から学ぶ

### 【ウガンダ共和国 基本情報】

- 面積: 24万km<sup>2</sup>
- 人口: 3,300万人
- 首都: カンパラ
- 言語: 英語、スワヒリ語など



### ？TABLE FOR TWOとは？

TABLE FOR TWOヘルシーランチを選ぶことで、参加者自身のメタボリック予防ができると同時に、開発途上国の子どもに給食をプレゼントできるという日本発の食糧・健康プログラムです。

### ？どこを支援しているの？

現在の支援先は東アフリカのウガンダ、ルワンダ、マラウイの3か国。今後、支援地域を拡大していく予定です。